

燃料研究棟汚染事故に係る対応（週報8/28～9/3）

概況

8/28～9/3に実施した、主な対応等は以下のとおりです。

- ・ 108号室の壁面等の汚染検査・除染作業を引き続き実施しています（8/23～）。

現場復旧

- 108号室（事故発生場所）の現場復旧に向けた措置
 - ・ 天井面、壁面、グローブボックス他構造物等の汚染検査・除染作業を引き続き実施しています（8/23～）。
- ※ 作業内容の詳細は、
[-108号室の汚染検査・除染作業](#)
をご参照ください。

原因究明

- 貯蔵容器内収納物の分析作業
 - ・ 貯蔵容器から取り出した核燃料物質の粉末について、X線回折測定*1による分析を開始しました（9/4～）。また、その他につきましては、予定した作業を終え、最終報告に向けて取りまとめを行っています。
- ※ 作業内容の詳細は、
[-貯蔵容器内収納物及びフード前面飛散物の分析作業（変更版）](#)
をご参照ください。

*1 X線回折（X-ray diffraction、XRD）測定；一定波長のX線を分析試料に照射すると、散乱されたX線は物質の原子・分子の配列状態によって、物質特有の回折パターンを示す。X線回折測定は、この回折パターンから試料中の物質を知る手法である。

被ばく評価

- ・ 放射性物質の摂取に至った要因事象を調査するため、108号室内で採取したスミヤろ紙*2の走査電子顕微鏡（SEM）*3による観察結果について、最終報告に向けて取りまとめを行っています。

- ・ また、上記と同じ目的のため、作業者が装着していた半面マスクの汚染状況の測定結果について、最終報告に向けて取りまとめを行っています。

※ 作業内容の詳細は、

-[燃料研究棟で作業者が着用した半面マスクの廃棄物処理](#)
をご参照ください。

*2 スミヤろ紙;原子力施設等で放射性物質による汚染状況を確認するために、目的とする場所をふき取ることによって採取したものの放射エネルギーの測定を行う。この「ふき取り」に利用するろ紙をスミヤろ紙という。

*3 走査電子顕微鏡 (SEM) ; 電子線を試料に当てて表面を観察する顕微鏡であり、X 線検出器を取り付けて元素分析を行うこともできる (Scanning Electron Microscope)。

その他

○ 外部対応

- ・ 原子力規制庁と定例面談等を行い、以下の事項について説明しました。
-前日の作業実績と当日の予定について (8/28~9/1)

※ 原子力規制庁との面談内容の詳細は、

-[原子力規制庁への提出資料](#)
をご参照ください。

○ 次回の週報は、9月11日(月)に発行いたします。

以上